

要 旨

プロデューサー型人材が考える

「プロデューサーシップ育成教育」に関する考察

山本 奈緒

近年の急速な社会変化に伴い、現在、日本社会において新しい価値を生み出すことのできる人材の育成が緊急の課題となっている。この課題に対し、政府や行政機関は育成の場を「学校教育」に求め、様々な提言及び実践が現行の教育現場で試みられている。しかし、育成すべき人材像が明確化されておらず、根拠に基づく教育実践が行われていないと言える。

本研究では、育成すべき明確な人材として「プロデューサー型人材」を取り上げた。プロデューサー型人材とは、自らで新しい価値を創造し、それを社会化することのできる人材と定義される。また、彼らが特徴的に有するプロデューサーシップとは、様々な要件を組み合わせながら、自身の発想を実現していく能力を指している。プロデューサー型人材こそ、現在の日本社会が求める人材であり、教育を通してプロデューサーシップを育成していく必要があると考えた。そこで、本研究では、プロデューサー型人材が考える「プロデューサーシップ育成教育」の具体的教育内容を明らかにすることを目的とし、研究に着手した。

本研究では、研究目的を明らかにするため、2段階での調査を実施した。第1段階の調査では、選出したプロデューサー型人材のプロデューサーシップを測定し、調査対象者としての妥当性を示すことを目的としたアンケート調査を行なった。「プロデューサー型人材のコンピテンシーリスト」を用いたアンケート調査票を作成し、客観的且つ明示的にプロデューサーシップを測定するため、プロデューサー型人材を実験群、企業に所属する人材を統制群とし、収集したデータをt検定によって分析した。その結果、本研究で調査対象として選出したプロデューサー型人材が、企業に所属する人材よりもプロデューサーシップを高く有している人材であることが明らかとな

り、本研究で選出したプロデューサー型人材の調査対象者としての妥当性が示された。

そして、第2段階の調査では、本研究のメイン調査となる、プロデューサー型人材に対するインタビュー調査を実施した。インタビュー調査では、まず、本研究で選出したプロデューサー型人材が自身のプロデュース行為を行う際に必要であった資質や能力についての内省を行ってもらった。その上で、プロデューサーシップの育成に必要な教育についての証言を得た。その結果、主要なカテゴリーとして、プロデューサーシップを育成するために「教育を通して育成すべき資質や能力」、「学習者が行うべき学校教育での活動」、「学校・教師のあり方」、さらに「学校教育の中でプロデューサーシップの育成を阻む要因」がそれぞれ抽出される結果となった。

本研究によって、プロデューサー型人材が考える「プロデューサーシップ育成教育」の具体的な教育内容が明らかとなり、それは「なんのために」「どのような力を」「どのように育成するのか」といった、教育を実践するための具体的な指針が示されたと言える。今後、本研究結果が、教育現場において実践段階へと繋がれば、プロデューサー型人材のような新しい価値を生み出すことのできる人材の育成・輩出が可能となり、日本社会にとって大きな契機となるだろう。